

大阪市立大学における教育評価について

学士課程および大学院の各課程について、全学的な「教育評価の方針」を設定する。その方針に従って全学的な「教育評価計画」を作成する。各学部・研究科においては、それぞれが担当する学位プログラムの評価のための教育評価計画を、必要に応じて全学の教育評価とは別に作成する。

大阪市立大学 学士課程教育評価の方針

「学位授与の方針（ディプロマポリシー）」に掲げる学修成果の達成状況を、次の方針に従って評価し、教育のさらなる充実・改善につなげていく。

1. 直接評価指標を活用した学生の学修成果の評価

- (1) 各授業においてディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに即した到達目標をシラバス等で提示し、それに則した厳格にして適切な成績評価を実施する。
- (2) 学生が各自の卒業後の進路等の目標に応じて、自らの学修成果を自己評価できるように、成績評価に基づく学生の学修成果評価指標である OCU 指標を導入する。
- (3) 各学部による学修指導・支援体制のもと、各学部・学科の特色や必要性に応じて、学生の OCU 指標や OCU 指標以外の成績評価関連指標（単位取得率、標準年数での卒業率・留年率、GPA など）や履修登録状況、卒業時の進路決定状況等を把握し、学修支援のあり方を検討したり、カリキュラム改組の必要性を把握したりする。
- (4) 入学者追跡調査を行い、下記4のアドミッションポリシーや入試制度の評価に活用するとともに、学修に困難を示す学生の支援にも活用する。

2. 間接評価指標を活用した学生の学修成果の評価

- (1) 学生・卒業生を対象とする質問紙調査を定期的実施し、学修成果の状況（3ポリシーが機能しているかどうかなど）を把握する。
- (2) 教員に対する意識調査を定期的実施し、教員から見た本学の教育の成果と課題を把握する。
- (3) 学生による授業アンケートを実施し、各授業において学生がどのように学んでいるかを把握する。
- (4) 各学部の学修相談担当者による面談などから得られる情報も適宜活用して、学修支援システムやカリキュラムの機能状況を把握する。

3. 「1」「2」の評価結果等に基づく、カリキュラムポリシーの持続的な評価（カリキュラムポリシーの機能状況も含む）を行う。

4. 「1」「2」の評価結果等に基づく、アドミッションポリシーの持続的な評価（アドミッションポリシーの機能状況も含む）を行う。
5. 「1」「2」の評価結果等に基づいて、ディプロマポリシーについても必要に応じて見直しを検討する。

大阪市立大学 大学院教育評価の方針

「学位授与の方針（ディプロマポリシー）」に掲げる学修成果の達成状況を、次の方針に従って評価し、教育のさらなる充実・改善につなげていく。

1. 直接評価指標を活用した学生の学修成果の評価
 - (1) 各授業においてディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに即した到達目標をシラバス等で提示し、それに則した厳格にして適切な成績評価を実施する。
 - (2) 各研究科による学修指導・支援体制のもと、学位取得に係る指標や成績評価関連指標、履修登録状況等を把握し、困難を抱えた学生への支援体制のあり方を検討したり、カリキュラム改組の必要性を把握したりする。
2. 間接評価指標を活用した学生の学修成果の評価
 - (1) 院生・修了生を対象とする質問紙調査を定期的の実施し、学修成果の状況（3ポリシーが機能しているかどうかなど）を把握する。
 - (2) 教員に対する意識調査を定期的の実施し、教員から見た本学の教育の成果と課題を把握する。
 - (3) 学生による授業アンケートを実施し、各授業において学生がどのように学んでいるかを把握する。
 - (4) 各研究科の論文指導や学修相談などの個別面談等から得られる情報も適宜活用して、学修支援システムやカリキュラムの機能状況を把握する。
3. 「1」「2」の評価結果等に基づく、カリキュラムポリシーの持続的な評価（カリキュラムポリシーの機能状況も含む）を行う。
4. 「1」「2」の評価結果等に基づく、アドミッションポリシーの持続的な評価（アドミッションポリシーの機能状況も含む）を行う。
5. 「1」「2」の評価結果等に基づいて、ディプロマポリシーについても必要に応じて見直しを検討する。